

## NEWSLETTER

No. 38

6 January 2007

- ・2006年地理学教室の行事記録・・・・・・・・1
- ・第6回地理ワークショップの開催・・・・・・・・2
- ・イラク向け第三国研修「文化遺産」―遺跡保存・管理―参加報告・・・・・・・・3
- ・2006年度地理実習の記録・・・・・・・・4
- ・卒業論文公開口頭試験について・・・・・・・・8
- ・2006年度卒業論文公開口頭試験日程・・・・・・・・8
- ・国土館大学地理学会費の納入について・・・・・・・・10

### 【2006年地理学教室の行事記録】

- 1月 5日 世田谷の歴史地理・巡検（岡島）
- 2月 14日～16日 平成17年度 卒業論文公開口頭試験
- 4月 29日 生物地理学野外実習（鶴川キャンパス：磯谷）
- 5月 25日～26日 1年生地理学野外実習
- 5月 28日 生物地理学野外実習（生田緑地：磯谷）
- 6月 10日 国土館地理学会（於 世田谷キャンパス 6号館 6503教室）  
<講演会> フィリピン異文化体験 奥山友希乃さん（卒業生・JTB勤務）  
ブラジルでの研修生活 飯田 真仁君（地理・環境専攻学生）  
<総会> 10号館 10329教室  
<懇親会> 1号館地下（スエヒロ学生食堂）
- 6月 30日 9月卒業生公開口頭試験
- 7月 27日～28日 第6回地理ワークショップ（世田谷キャンパス 10号館 1021教室）  
「ヨーロッパ地誌をどう教えるか」（長島，野口，内田，加藤，長谷川裕彦非常勤講師）  
参加者・31名
- 8月 3日～4日 国土館大学地理学会巡検（軽井沢：磯谷・内田引率，13名参加）
- 10月 3日～4日 2年生地理学野外実習
- 10月 24日～27日 3年生地理学野外実習
- 12月 16日 国土館地理学会（於 世田谷キャンパス 6号館 6503教室）  
<講演会> 清水 靖夫先生（本学非常勤講師）  
第二次世界大戦中に日本が作った地図  
<研究発表>（実習課題報告）  
松野隆明，山添啓介，森田梓・松島正信，野澤健大，中村直貴，小池友恵，呉亜鳴  
<懇親会> 1号館地下（スエヒロ学生食堂）

#### 重要！

研究室，図書館から借りだしている書籍・備品は口頭試験の前（2月初旬）までに必ず返却して下さい。  
4年生で未返却の者は，卒業資格を満たしていないとみなします。

## 【第6回地理ワークショップの開催】

「ヨーロッパ地誌をどう教えるか：ヨーロッパの基礎的理解に向けて」  
社会科教員のための地理ワークショップ

大学の研究成果や教育の成果を社会・教育界へ還元することを目的に毎年開催している地理ワークショップを、今年も7月27日（木）～28日（金）の2日間の日程で開催した。

今回はじめて世界地誌をテーマとして内容を組んだ。これまでのアンケートではGISやRSに関するワークショップが好評で、世界地誌をテーマとすることには若干の不安もあったが、予想外の反響で、多くの受講者（計31名）があった。すべての担当者がPowerPointによる説明と資料集を準備して臨んだ。なお、今回は講師陣の1人として、長谷川裕彦非常勤講師（地形学・地生態学が専門；本学では「第四紀の自然史」等を担当）を迎えて、南極観測隊（夏隊）での調査の成果なども交えたご講義をいただいた。

講義の詳細と担当者は以下の通り：

担当講義	担当者
1) そもそもヨーロッパとは何か？ ヨーロッパ地誌の総論	内田 順文
2) ヨーロッパを旅してわかる意外な事実：ヨーロッパ人の考え方・日本文化との比較から	内田 順文
3) ヨーロッパの地形に残る氷河期の影響	長谷川裕彦
4) 東ヨーロッパ諸国の再生：ハンガリーを中心として	長島 弘道
5) 大陸西岸気候とは？	野口 泰生
6) 「ハイジ」の世界の農業と観光：アルムの地域性とスイスの産業	加藤 幸治

なお、大学院生（藤田君）にTA（ティーチング・アシスタント）として補助をお願いした。また、第1日目・17:30～は自由参加による懇親会を開催し、今回の講義担当者ではない教員も含めた全員が参加した。磯谷達宏先生には懇親会の調達係をお願いした。懇親会で振る舞われた長島先生からの差し入れによるハンガリーワイン（トカイワイン）の試飲も好評だった。

（野口泰生）



今年も多くの先生方がおみえになりました



東ヨーロッパ諸国の再生：ハンガリーを中心として



講義の後のひととき



用意されたヨーロッパ各地のチーズとワイン

## 【ヨルダン・ハシミテ王国・イラク向け第三国研修「文化遺産」—遺跡保存・管理— 参加報告】

ここ数年、イラク戦後復興に関する国際的な協力事業に、地理学教室関係者が参加している。今回は今年も当該プロジェクトに参加した大学院博士課程・後藤智哉君の報告です。

### イラク向け JICA 研修への参加

マルハバ！地理学教室所属の大学院生の後藤智哉です。イラクに対して地理学教室が協力しているプロジェクトについて報告したいと思います。

本プロジェクトは、イラク復興支援事業の中のひとつで“ヨルダン・ハシミテ王国・イラク向け第三国研修「文化遺産」—遺跡保存・管理—”と呼ばれ、国士舘大学は、国際協力機構（JICA）により委嘱され関わっています。

イラクに対するプロジェクトですが、イラク国内の治安悪化により日本人には退避勧告が出ているため入国は不可能です。しかし、現在も文化遺産の破壊や略奪、盗掘が横行している状況で、一刻も早く支援することが必要です。そこで、第三国（ヨルダン）にイラク人を呼び、日本の専門家と一緒に滞在しながら文化遺産復興の支援を行うこととなりました。その研修生として、イラクの文化遺産保護の将来を担う三十代を中心としたイラク考古局若手職員からメンバーを選抜しています。

本プロジェクトの目的は、ヨルダン国内の遺跡（ウムカイス）を使用して実際に発掘作業を行いながら、発掘前の調査方法・発掘計画方法・発掘方法・出土物の保全修復に関する知識と技術を研修生に習得してもらうことで、イラクでの文化遺産保護のリーダーとしての活躍が期待されています。

国士舘大学が中心となり、フランス・ドイツ・ベルギー・ユネスコと共に研修を行っています。これは国士舘大学のイラク古代文化研究所が、1970年代からイラク各地において発掘調査の実績があり、国際的に認められていることや、イラク考古局との友好関係があるためです。

本プロジェクトは2005年から三ヵ年で計画されており、すでに4回行われています。国士舘大学からは松本健教授（イラク研所長）を団長として、保存科学分野、考古学分野、土木・測量分野、建築分野、地理分野の専門家が参加しています。また学外からは元興寺文化財研究所や福岡市埋蔵文化センタからも専門家が派遣されています。

地理学担当として教室から長谷川均教授と私が講義を行いました。研修生はバクダット大学出身のエリート官僚ですが、イラン・イラク戦争から今日までの困難な状況により、かならずしも満足な教育を受けているとはいえません。しかし、学びたいという姿勢は強く、私も大変勉強になった研修でした。学んだ地理学で国際貢献できたことを感謝しています。

今年の滞在期間中はイスラエルがレバノンに侵攻していた時期で、砲撃音が響いたりティベリアス湖対岸の町がロケット攻撃を受けていたりしていましたが、滞在するヨルダン国内は安全であり、日本大使館やJICAはもちろん、ヨルダン王国考古局の全面的なバックアップがあった為、無事終了することができました。マッサラーマ。

地理学教室から参加した研修等

○第1回研修（2005年2～3月）

担当：長谷川均（地形学・地図学・リモートセンシング）、後藤智哉（GIS・GPS・コンピュータ）

○第2回研修（2005年8～9月）

担当：長谷川均（地形学・地図学・リモートセンシング）、後藤智哉（GIS・GPS・コンピュータ）

○2005年冬季発掘調査（2005年12月～2006年1月）

担当：後藤智哉（第2回研修のまとめと第3回研修の準備・地形測量・写真測量・GIS）

○第4回研修（2006年7月～8月）

担当：後藤智哉（GIS・GPS・写真測量・コンピュータ）



講義（講師が後藤君）



GPS の使い方



集合写真

## 【2006年度地理実習の記録】

### 1年生地理学野外実習A：5月25日（木）～26日（金）実施

◎長島・野口・長谷川・内田・岡島・磯谷・加藤

実施地：神奈川県横浜市緑区十日市場～中山地区の丘陵地

参加学生数：73名（男子60名，女子13名）

テーマ：① 都市域の拡大と農村地域の変化，② 地形の人工改変と土地利用の変化

内容：① 多摩丘陵の南部に位置し，東京・横浜市街地に近接する地域を例に，1950年から現在に至る土地利用の変化を調べその特徴を明らかにする。

② 基本的な地域調査をつうじて，地理・環境調査法の基礎を学ぶ。

課題：図表を含めて10枚前後のレポート

### 2年生地理学野外実習B：10月3日（火）～4日（水）実施

◎長島

実施地：千葉県流山市，柏市，茨城県みらい平地区，つくば市等

参加学生数：12名（男子10名，女子2名）

テーマ：常磐新線（つくばエクスプレス）の開通とその地域への影響

内容：秋葉原駅周辺の再開発，流山おおたかの森駅付近の開発と自然環境の保全，柏の葉キャンパス地区の開発の現状，みらい平地区の開発の現状観察，筑波研究学園都市の都市整備状況

課題：観察事項＋それについての考察を中心にレポートを作成する。

400字詰め原稿用紙にして20枚程度（含む図・表・写真）

◎野口

実施地：長野県霧ヶ峰高原

参加学生数：4名（男子3名，女子1名）

テーマ：霧ヶ峰高原を例に，本州亜高山帯における自然環境を理解する

内容：1）霧ヶ峰高原の地質学的・地形学的位置づけ

2）霧ヶ峰高原の気候学的位置づけと生態系，「風と地形→積雪と凍結融解→植生」の関係

3）霧ヶ峰と人的関わり（縄文時代から今日まで：黒曜石，狩場，採草地，スキー場，警察犬，ハイキング）

課題：指定文献3本，地理実習資料，現地での説明をもとに，霧ヶ峰の植生分布に影響を与える地形・気候・人間活動などの役割を説明せよ

◎長谷川

実施地：神奈川県，三浦半島南部

参加学生数：9名（男子8名，女子1名）

テーマ：三浦半島南部の地形と地質

内容：海岸地形，組織地形の観察と調査

課題：20枚程度のレポート

◎岡島

実施地：神奈川県小田原市・箱根町

参加学生数：9名（男子8名，女子1名）

テーマ：近世城下町小田原の近現代における変遷

内容：小田原市街地における現地調査，旧東海道及び箱根関所の踏査・見学

課題：標記のテーマについて所定の分量のレポートを作成する。なお夏休みに事前学習を行っている。

◎内田

実施地：神奈川県三浦市

参加学生数：10名（男子7名，女子3名）

テーマ：風景の鑑賞法と人文主義地理学の方法

内容：1. 風景論の基礎，および風景の観賞方法について実習する。

2. 首都圏の主要な観光地である三崎周辺について，その与えられた意味を記号論的視点から解読する。

課題：レポート1：三浦半島の風景美について

レポート2：観光地の記号としての三崎と三浦半島

◎磯谷

実施地：長野県蓼科方面

参加学生数：10名（男子9名，女子1名）

テーマ：山地帯～亜高山帯の植生

内容：茅野市内から縞枯山にかけての地域でみられる植生について，組成・構造・動態・立地などの視点から調査した。

課題：図表を含めて8000字相当以上のレポートを提出する。

◎加藤

実施地：東京都中央区内：日本橋兜町，日本橋茅場町1～3丁目，八丁堀1丁目，八重洲通り  
中央区立京橋図書館，中央区役所，東京証券取引所

参加学生数：10名（男子9名，女子1名）

テーマ：東京都心部における空間利用とその変化

内容：東京都心部における水平的・垂直的な空間利用について，土地利用，施設分布，街路別空間利用などを調査することを通して，都心部の空間利用パターンとその変化を考え，その要因や背景を学んでいく。

課題：調査結果に関する地図を作成するとともに，調査結果にもとづいた内容についてレポートする。

**3年生地理学野外実習C：10月24日（火）～27日（金）実施**

◎長島

実施地：山梨県甲府市および周辺地域

参加学生数：8名（男子7名，女子1名）

テーマ：各人の設定したテーマ

内容例：甲府市および周辺都市におけるまちづくりの現状と課題，甲府TMO構想，中心市街地の空間利用，ワイナリーを中心としたまちづくり，甲府市および周辺地域の生活用水の供給

課題：400字詰め原稿用紙にして30枚（含む図・表・写真）

◎野口

実施地：新潟県上越市高田地区

参加学生数：7名（男子5名，女子2名）

テーマ：上越市（高田）およびその周辺における小気候調査：都市規模とヒートアイランドとの関係

内容：Excelを用いた高田測候所永年データのグラフ化，高田測候所の見学，朝晩の気象観測と分布図の作成，各自の観測・観察，討論

課題：卒論の手引きを参考に章編成で，各自のテーマでレポートを作成する

◎長谷川

実施地：福島県，南会津町周辺

参加学生数：4名（男子4名）＋大学院生1名

テーマ：河岸段丘の形成過程，リモートセンシングのランドトゥールース

内容：上記に同じ

課題：30枚程度のレポート

◎岡島

実施地：岐阜市とその周辺地域

参加学生数：8名（男子8名）

テーマ：歴史地理学・交通地理学を中心に各自が設定

内容例：城下町加納の歴史の変遷と地域構成，近世期の御嵩宿における役割と歴史の変遷，輪中地域の概要と現状―岐阜県高須輪中の水防施設を例にして―，東部丘陵線の乗客数の変化と沿線地域の影響，あおなみ線開通に伴う沿線地域への変化と影響，伝統的建造物群保存地区における町並み保存に対する住民意識―美濃市美濃町を事例に―，岐阜における盛り場の構成とその変遷―岐阜市柳ヶ瀬を事例に―，岐阜市街地における公共交通ネットワークの変化

課題：各自のテーマに従ってレポート作成。

## ◎内田

実施地：沖縄本島内各地

参加学生数：8名（男子5名，女子3名）

テーマ：学生各自でテーマを設定し，現地調査を行う

内容例：世界遺産グスクにおけるオーセンティシティ，国際通りにおける土地利用変化，沖縄の温泉施設観光，観光地のバリアフリー化の現状，沖縄のスキューバダイビング観光，沖縄文化のマンガへの影響

課題：各自設定したテーマに従って，現地で得たデータの分析結果をもとに考察を行い，「ミニ論文」を作成する。

## ◎磯谷

実施地：高知県須崎市

参加学生数：14名（男子11名，女子3名）

テーマ：高知県南部の生態地理

内容：ニホンカワウソが最後に目撃されたことで知られている高知県須崎市の新荘川付近において，森林・草原・鳥類・魚類・都市緑地のいずれかを対象として，参加者各自が自ら設定した生態地理学的なテーマについて調査した。

課題：A4版で30枚程度（図表を含む）のレポートを作成する。

## ◎加藤

実施地：佐賀県伊万里市とその周辺

参加学生数：12名（男子10名，女子2名）

テーマ：各自が設定したテーマにもとづいた現地調査・地域調査を行う

内容例：伊万里・有田焼産地の現状と再生計画，伊万里市中心市街地の構造変化と振興策，伊万里港の歴史と現状，伊万里市民の買い物行動，国際観光都市・伊万里市の観光整備状況，川内大山地区におけるまちおこし，唐津市中心商店街の活性化策，唐津港の現状，鳥栖市における競馬場の立地と財政状況

課題：各自のテーマについて，『卒業論文の手引き』にもとづき，レポートをまとめる。

## ○地理学野外実習の一コマ

今回は地理学野外実習B・Cの様子を紹介するため，内田先生の2つの実習についてコメントをもらいました。

地理学野外実習B（内田先生）・三浦市 引率者のコメント：

2日間とも曇りまたは雨模様で，風景を觀賞する上では必ずしもよい条件とは言えませんが，とくに支障なく予定していた行程を無事こなすことができ，上々の巡検だったと思います。参加学生も巡検に真面目に取り組んでいたようですので，何かしら得るものがあったのではないかと思いますし，なにより宿泊したホテルの部屋の広さと食事の内容には十分満足してもらったと思います。しかし温泉の方はちょっとがっかりでしたね。



地理学野外実習C（内田先生）・沖縄本島 引率者のコメント：

当初予定していたムーンビーチのホテルの予約が取れず，結果的にずいぶん北方のホテルに宿泊することになり，那覇をはじめとする県南をフィールドにした学生には移動の点で少し大変だったかもしれませんが，逆に普段行くことが少ない県北部を見ることができたという点ではよかった面もありました。天気は好天が続き，10月末というのに暑いくらいでしたが，調査には最適だったのは幸運でした。今回はパックツアーを利用することで交通費・宿泊費をかなり安くあげることができたので，その点でも十分満足できたと思います。



## 国士館地理学会巡検

◎第1回（引率者：磯谷・内田）：8月3日（金）～4日（土）実施

実施地：長野県北佐久郡軽井沢町（旧軽井沢から信濃追分にかけて，宿泊地：軽井沢駅付近）

参加学生数：10名（男子8名，女子2名）

テーマ：軽井沢の景観を読む

内容：旧軽井沢・碓氷峠から中軽井沢を経て信濃追分に至る行程を歩いて観察し，軽井沢の地理とくに景観とそのイメージについての理解を深めた。

引率者からのコメント：

避暑地の軽井沢とはいえ、盛夏の8月4日～5日の日中は、暑さと日差しのため楽な行程ではなかった。しかし、参加学生10名と引率教員2名の計12名は、軽井沢～信濃追分の景観として見るべき地点をあらかじめ踏破し、実りの多い2日間を過ごした。

大学院生時代に軽井沢の地理的イメージについて研究し論文も書いた内田先生は、主要な人文景観の見るべきスポットに向けて先頭をきって歩き、各所で適切な説明をしてくださった。目的地に向けた内田先生の歩行スピードがなければ、今回の巡検は中途半端なものに終わっていたことであろう。参加者も、弱音をはかずによく歩いた。

もう一人の引率教員の磯谷は、「明治期から宣教師らによって育まれてきた旧軽井沢の植生景観が、いかに他所に例を見ない風格と自然性に富んだものであるか」ということを、随所の植生景観を前にして解説した。おそらく参加者は、「これもよく育ったウラジロモミ」という言葉を聞き飽きたことであろう。

宿は、軽井沢駅から5分ほど碓氷峠方面に歩いたところにある民宿「ふじ喜」であった。便利な場所にある上、食事もおいしい宿だった。1泊とはいえ、リーズナブルな宿代で盛夏の軽井沢滞在者の一員として見聞を広めることができた我々は、幸運な2日間を過ごすことができたといえよう。（磯谷達宏）

巡検日は2日とも、軽井沢にしては暑すぎるくらいの晴天で、巡検には絶好の日和でした。想像以上に観光客の人も多く、初めて軽井沢を訪れた人も、その点では典型的な「夏の軽井沢」を満喫できたのではないのでしょうか？ 普段歩き慣れていない人には少々きつかったかもしれませんが、地理の巡検というのは、やはり「歩き」が基本ですし、正味24時間程度の軽井沢滞在で、できるだけ軽井沢のいろいろな場所を見て歩くことを前提に巡検コースを設定したので、文句はないはず。民宿の夜にみんなでやった「拡大大貧民」で暑く燃えたのもよい思い出です。（内田順文）



軽井沢巡検 風景

左上：歩く歩く！  
右上：宿にて  
右下：新幹線開通の影響  
左下：集合写真

学会巡検は勉強になるとともに、他学年の学生とも親しくなれる機会です。機会があれば、参加してみると得られることも多いはず。

## 【卒業論文公開口頭試験について】

地理学教室では、卒業論文の審査が公平になされるよう各々の論文を2名の教員が閲読し、さらに公開口頭試験の結果を加味して合否を決めています。今年度も下記の通り、卒業論文の口頭試験が行われ、試験の結果から卒論の評点が決まります。試験は、持ち時間9分の口頭発表とそれに続く質疑応答です。発表者はあらかじめ卒論の要旨、図表などをまとめたレジюмеを用意し、出席者に配布できるよう準備してください。また、質疑応答の際に必要な卒業論文のコピー、その他卒論作成に使用した資料や参考文献のコピーなどは、必ず持参してください（公開口頭試験の際に提示を求められる場合があります）。これらは卒論の合否が決まるまで処分しないこと。

就職が決まり、試験当日に社内研修などが予定されている4年生は、就職予定先に事情を説明し、研修欠席の手続きを済ませておくようにしてください。

なお評価の結果、優秀な卒論2編は、全国地理学専攻卒論発表大会（2006年3月中旬・東京学芸大学）で発表してもらうこととなります。発表者は、2月8日中に決定し、すぐに通知します。

日 時：2007年2月6日（火）11:00～、7日（水）9:10～、8日（木）9:10～  
場 所：世田谷校舎 10号館2階 10204教室（階段教室）

### 注意事項（よく読むこと）：

試験時間は、1人18分（発表9分、質疑応答9分）である。発表者は発表用原稿を必ず用意し、あらかじめ発表の練習をしておくこと。発表の内容はもちろん、発表の手際や発表の態度なども審査の対象となる。（発表時の予鈴7分、本鈴9分）。

- ※ 発表に際しては、かならず以下の要領でレジюмеを用意しておくこと。レジюмеはワープロによって作成することが望ましい。
  1. レジюмеは、論文題目、氏名、論文の要旨（目的・方法・結果を書く。字数が多くなりすぎないように、計800字程度を目安にするとよい）、説明に使用する図表によって構成する。
  2. レジюмеの枚数は、A3サイズで2枚横書き（図表を含む）とし、各自40部ずつ用意する（自費でコピー：図表がカラーでないと凡例等が読み取りにくい場合はカラーコピーするか、口頭試験用に書き直すこと）。
  3. レジюмеは、発表者交代の合間に当該発表者の次の発表者が配るものとする。その際、まず教員に配ること。
- ※ 発表では、スライドやOHP、PCプロジェクターも使用できる。使用希望者は事前に専攻主任（岡島）またはゼミ担当教員に申し出ること。なお、PCプロジェクターを使う場合、ノートPCは各自で用意すること。また、ディスプレイの設定等が必要なため、PCのマニュアルをよく読んで設定方法を確認し、発表までに動作確認等しておくこと。
- ※ 3年生は卒論作成の参考のため、また来年の口頭試験のためにも、全員2日以上出席すること。1、2年生もできるかぎり1日以上出席すること。

## 【卒業論文公開口頭試験日程】

番号	氏名	題目	主査	副査
<b>2月6日（火） 11:00～12:30 &lt;進行：磯谷&gt;</b>				
1	田谷野一幸	栃木市における商店街の現状と都市観光	岡島	長島
2	相澤裕子	自然体験教室が小学生にあたえる影響－武蔵野市セカンドスクールを事例に－	内田	長島
3	宮下智宏	鉄道建設の地域的展開の差異 －1920年代の山形県村山地方と静岡県遠州地方を例にして－	岡島	内田
4	片山弦也	川口市における中心市街地の変遷	加藤	内田
6	金井祐輔	相模川及び中津川の段丘面における気温分布特性	野口	長谷川
<b>13:20～15:45 &lt;進行：長谷川&gt;</b>				
7	高水泰裕	東京都奥多摩町日原川における河川性サケ科魚類の分布とその生息環境について	磯谷	野口
10	高畑暁彦	郊外型大型商業施設集積が商店街に与えた影響 －佐久市における大型商業施設集積が岩村田商店街に与えた影響－	内田	岡島
12	矢崎誠	横浜市における都市開発とその集客への影響	長島	岡島
13	渡部史哉	山形県に見られる高温現象について－1994年の猛暑の年を例に－	野口	磯谷
14	笠原由喜	東京大都市圏における通勤圏・通学圏の変容	岡島	加藤



15	宮崎 友成	子どもの生活時間と遊び ー地域間の比較ー	内田	岡島
16	森田 久子	相模原市における都市農業政策について ー市民農園を中心にー	長島	加藤
17	近藤 芳彦	水戸市における商業店の分布と中心地	内田	長島

15:55~18:20 <進行：岡 島>

18	武石 佳太朗	新潟県における平野部と山間部の積雪量の違いについて	野口	長谷川
19	原 恒太	秋田県雄物川下流域における洪水災害による土地利用変化	長谷川	磯谷
20	石田 勇介	大型店の立地による新発田市中心商店街の構造変化	加藤	内田
21	中澤 健	沖縄県西表島における耕作放棄地に成立した植生の変遷 ー二次遷移初期における種構成と先駆性樹種の成長特性ー	磯谷	長谷川
23	林 俊介	東京都におけるスタジイの海岸部から内陸部にかけての成長パターンの違い	磯谷	野口
24	赤岩 大地	宮古諸島における八重山地震津波の被害と地形との関係	長谷川	磯谷
25	臼井 友理	短期間集中豪雨について ー宇都宮、奥日光、前橋を例にー	野口	長谷川
27	大村 彬	薩摩半島南東部におけるマツ林の状況について ー第四紀安山岩類面上と白亜紀四方十層群面上とを比較してー	磯谷	長谷川

2月7日(水) 9:10~12:10 <進行：加 藤>

29	南 児 栄	日本でのオオカミ復元活動の現状とその可能性について	磯谷	野口
30	松本 直久	宅配便事業における営業所の立地特性	加藤	内田
31	石川 貴之	気候変化の影響による氷河の消長の変化	長谷川	野口
32	高山 知恵	室蘭市輪西地区商店街における構造と変容	加藤	長島
33	村越 亮	静岡県におけるグリーン・ツーリズムの展開と課題	長島	野口
34	堀井 健太郎	地方中小私鉄の現状と課題 ー富山地方鉄道本線を例としてー	岡島	長島
37	綾部 吾朗	関東平野における夏の高温現象について	野口	磯谷
39	舘澤 壮	ハザードマップの普及および内容に関する考察	長島	内田
40	坪田 惇平	北海道天塩海岸における海浜堆積物と現成砂丘の堆積環境	長谷川	磯谷
41	小林 章浩	近代における養蚕地域の形成と展開 ー茨城県新治郡を例にー	岡島	長島

12:50~15:35 <進行：内 田>

42	川島 幸輝	沖縄県西表島におけるリュウキュウマツの衰退の分布と生育条件の違い	磯谷	長谷川
43	笹子 純	日本における捕鯨業の現状と捕鯨基地の地域振興策 ー千葉県旧和田町を中心としてー	長島	加藤
44	田中 敏哉	横浜市北西部における市営バスの特徴	岡島	内田
46	仁科 明秀	千葉県印旛沼周辺の土地利用と地形条件との関係	長谷川	磯谷
47	吉田 慈美	東京のヒートアイランド現象と風の影響について	野口	長谷川
49	福田 将史	長野盆地とその周辺地域における降雪分布の特徴について	野口	磯谷
50	北原 昌康	長野県松本地方における南風について	野口	磯谷
51	中嶋 脩夫	沖縄県宮古島市城辺地域にみられるトウファの特徴 ー岩手県安家カルストに堆積するトウファとの比較ー	長谷川	磯谷
53	矢崎 耕之	丹沢山地北部中川流域における沖積錐の形態	長谷川	磯谷

15:45~18:20 <進行：磯 谷>

54	木村 恭浩	降雪都市におけるコンパクトシティ構想の意義 ー弘前市の除排雪費用に着目してー	加藤	内田
55	波照間 潤	沖縄県西表島における希少植物マルヤマシユウカイドウとコウトウシユウカイドウの生育状況	磯谷	長谷川
56	板橋 隆志	地表面温度の日変化と気温との関係について	野口	長谷川
58	高橋 雄飛	構造改革特区域指定に伴う地域の変化についての考察 ー和歌山・新ふるさと創り特区を事例にー	加藤	長島
59	松本 悠嗣	旧宿場町における地域構造の変遷 ー神奈川県藤沢および平塚を例としてー	岡島	内田
60	小倉 光平	瀬戸大橋の架橋効果と香川県への影響	長島	加藤
61	安田 大輔	鳥取県米子市崎津町における耕作放棄地の現状と対策	長島	加藤
62	宇佐見 誠	東京下町地域における場所イメージ ー下町各地との比較による考察ー	内田	長島

2月8日(木) 9:10~12:10 <進行:野口>

63	佐々木 一正	養蜂における飼養形態の変遷	内田	長島
64	山中 知明	二つの視点から見た波食地形の解析 -伊豆大島・湯の浜海岸を例に-	長谷川	磯谷
66	本間 伸吾	高田駅前商店街の変容とその要因	加藤	岡島
67	樋口 光男	茨城県における大規模小売店舗の立地分析 -県南・県西地域を例に-	長島	加藤
71	内藤 絵理	江東区におけるマンション立地の現状と特性	長島	加藤
72	春原 一裕	東京大都市圏近郊都市の中心地区における空間利用の変化 -千葉県柏市を例として-	岡島	長島
74	富井 千代	長野電鉄の敷設計画と建設の経緯	岡島	内田
75	大矢 康一	東京都におけるコミュニティバスの現状と課題-杉並区・西東京市を事例として-	岡島	加藤
76	中村 優太	つくばエクスプレス守谷駅周辺における土地利用の変化と地価変動	加藤	長島
77	内田 祥子	長野市中央通り商店街における商店街の変容と地域内分化	加藤	岡島

13:00~15:00 <進行:加藤>

78	安彦 裕輔	千葉県南部地域における高速バス路線の現状と課題	岡島	内田
79	森 隆	熊谷市における中高層建築物の立地および空間利用	加藤	岡島
80	正村 翔	峠の地理学	長谷川	野口
81	佐藤 信也	新潟県の冬季の地上冬系について	野口	長谷川
82	池田 彰人	衛星画像の解析によるヨルダン渓谷の土地被覆変化	長谷川	野口
83	橋本 紗代子	九州北部の歴史的町並みにおける観光客のイメージ	内田	岡島
84	山口 和哉	東京ディズニーランドにおける利用者の行動 -追跡調査をもとに考える-	加藤	内田
87	小林 義則	茨城県筑波山におけるアカマツ個体群のマツ枯れ被害度	磯谷	野口
89	富永 鉄也	江戸名所めぐりにみる観光行動	岡島	内田
101	大橋 亮介	緑地の質がクールアイランド効果に及ぼす影響について -東京23区内の公園緑地を比較して-	磯谷	野口

### 【国士舘大学地理学会費の納入について】

下記に掲げる者は、国士舘大学地理学会費（4年分12,000円）が未納となっています。至急支払ってください。地理学教室では4年分の会費を納めていない学生については卒業を認めてません。4年生で未納の学生は、卒論口述試験の当日までに納入を完了してください。

会費未納者は1月末までに郵便振替で会費を納入すること。期限内に納入がなかった場合は保護者宛てに督促状を送ります。

振替用紙は郵便局にあります。「口座番号：00150-7-161762、加入者名：国士舘大学地理学会」宛とし、通信欄に自分の学年と氏名を記入のうえ、所定の金額を窓口またはATMで振り込んでください（ATMでの振込のほうの手数料は安くなります）。

(注：疑問・質問等は会計担当の内田まで連絡して下さい。なお、上記は12月21日現在の未納者です)